

令和5年度教育委員会点検評価報告書

(令和4年度分)

雲南市教育委員会

目 次

1. 令和4年度 教育委員会の活動状況	
(1) 雲南市が目指す教育	2
(2) 令和4年度の新たな事業	3
(3) 教育委員会の運営・活動	5
2. 点検評価に当たって	
(1) 点検評価の対象	5
(2) 点検評価の方法	5
3. 令和4年度 教育委員会点検評価	
はじめに	7
基本政策1 雲南市教育の推進体制の構築	7
基本政策2 「生きる力」を育てる学校教育の推進	8
基本政策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進	10

1. 令和4年度 教育委員会の活動状況

(1) 雲南市が目指す教育

令和元年度に策定した「第4次雲南市教育基本計画」では、雲南市が目指す「教育の基本目標」を継承し、次の3点を基本政策としています。

- ① 雲南市教育の推進体制の構築
- ② 「生きる力」を育てる学校教育の推進
- ③ 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

この基本計画に基づき、令和4年度は前年度を踏襲し、各基本政策について次のとおりの重点施策を掲げ、各種の具体的事業に取り組みました。

基本政策1 雲南市教育の推進体制の構築

- 開かれた教育行政の推進
- 地域の実情等に応じた教育環境の整備
- 地域全体で教育に取り組む仕組みづくり

基本政策2 「生きる力」を育てる学校教育の推進

- 「夢」発見プログラム（雲南市キャリア教育推進プログラム）の推進
- 幼児教育の充実
- 確かな学力の育成
- 豊かな心の育成
- 健やかな体の育成
- 人権・同和教育の充実
- 特別支援教育の充実
- 不登校児童・生徒への対応の充実
- 中学校区内の連携・交流の推進

基本政策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

- 社会教育推進体制の構築
- 地域自主組織との連携
- 青少年の健全育成の推進
- 地域の子育て支援の充実
- 図書館サービスと読書活動支援の充実

- 人権・同和教育の推進
- 文化活動の推進
- 文化財の保存と活用
- 生涯にわたって親しむスポーツ活動の推進
- 社会教育施設の整備・運営

(2) 令和4年度の新たな事業

① 児童・生徒タブレット活用推進事業

GIGA スクールサポーターを配置し、学校訪問やオンラインによる相談、デジタル・シティズンシップ教育の模範授業や校内職員研修を実施しました。また、児童・生徒のタブレットの持ち帰りを図ることができました。

併せて、タブレットの活用を図るため、A I 搭載のデジタルドリル等を全校に導入しました。

② 小学校トイレ感染症対策事業

新型コロナウイルス感染症対策（飛沫拡散防止）及びトイレ環境の衛生面向上のため、市内全ての小学校において、校舎各階男女1か所以上、体育館男女1か所以上洋式トイレが配置されている状態となるように、計83器のトイレ洋式化工事を実施しました。

また、手洗器自動水洗取付工事計155箇所も同時に実施しました。

③ 中学校トイレ感染症対策事業

新型コロナウイルス感染症対策（飛沫拡散防止）及びトイレ環境の衛生面向上のため、市内全ての中学校において、校舎各階男女1か所以上、体育館男女1か所以上洋式トイレが配置されている状態となるように、計39器のトイレ洋式化工事を実施しました。

また、手洗器自動水洗取付工事計86箇所も同時に実施しました。

④ 地域文化部活動推進事業

休日の部活動が地域活動に移行し、教員の働き方改革につなげるための実証事業に取り組みました。事業の核となるプラットフォームを構築するため、事業の一部（クラブ活動、指導者養成、指導者バンク整備）を（株）キラキラ雲南へ委託しました。

地域文化部活動（吹奏楽部）の試行により各楽器別の指導者による指導機会や、小規模団体による合同演奏等スケールメリットを活かした活動を創出しました。さらに、指導者バンクを整備し、13名に登録していただきました。

⑤ 地域運動部活動推進事業

休日の部活動が地域活動に移行し、教員の働き方改革につなげるための実証事業に取り組みました。事業の核となるプラットフォームを構築するため、事業の一部（クラブ活動、指導者養成、指導者バンク整備）を（株）キラキラ雲南へ委託しました。

令和4年度は、学校部活動のソフトボールに加え、社会体育の体験型スポーツとしてレスリング、競泳、硬式テニスの4種目について試行し、課題の把握に努めました。

また、指導者を養成するために研修会を開催し、地域移行への意識づくりを図りました。さらに、指導者バンクを整備し、34名に登録していただきました。

⑥ 文化施設トイレ感染症対策事業

新型コロナウイルス感染症対策（飛沫拡散防止）及びトイレ環境の衛生面向上のため、木次経済文化会館（チェリヴァホール）で計10器のトイレ洋式化工事と多目的トイレ3器の改修を行いました。

また、手洗器自動水洗取付工事計14箇所も同時に実施しました。

⑦ 演劇によるまちづくり活動再開支援事業補助金

「演劇によるまちづくり実行委員会」への活動再開支援として、近年存続が危ぶまれる「JR 木次線」をテーマに補助事業を雲南市文化企画運営事業として実施しました。奥出雲地方の地域資源である本線が地元の身近な存在であることを再認識できる、映画鑑賞、舞台・展示などの文化事業による木次線応援企画を実施して本線の利用促進や観光産業の一助となることを目指し、ウィズコロナ下での文化活動の再開のための支援活動を行いました。

⑧ スポーツ団体活動再開支援事業

新型コロナウイルス感染症収束後のスポーツ活動の円滑な再開につなげるための事業として、雲南市スポーツ団体活動再開支援事業補助金、雲南市長杯第1回雲南少年少女レスリング選手権大会補助金、大東陸上記録会補助金、トップアスリート招聘事業委託、ソフトボールレベルアップクリニックへの助成などを行いました。

⑨ 社会体育施設耐震化事業

社会体育施設のうち、大東体育文化センター、木次体育館、掛合体育館については、耐震診断等を実施していない施設でありましたが、スポーツ利用等のニーズも高いことから、令和4年度に耐震診断等を実施した、その結果に基づき、今後の使用について具

体的な決定を行いました。

(3) 教育委員会の運営・活動

① 総合教育会議

1回開催し、次のことを協議しました。

・海潮中学校の統合について

⇒ 結論として「地域住民の意向を尊重し、令和6年度より大東中学校に統合することはやむを得ない」との方向性が示されました。

② 定例会、懇談会、臨時会

次ページ掲載資料のとおり実施しました。

③ 教育委員による学校訪問・各種行事への参加

・学校訪問等

校長が新たに赴任した学校10校を訪問しました。各学級を巡り、ICT機器を生かした学習の様子を視察しました。その後、各校の学校経営や学力育成、不登校対応について意見交換を行いました。

・各種行事への参加

コロナ感染症の影響で各種行事が中止となったため、参加をしていません。

④ 視察研修

コロナ感染症拡大防止の観点から視察研修は実施しませんでした。

2. 点検評価に当たって

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成20年度から毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果を報告書として議会に提出するとともに、市民の皆様へ公表することとされています。

(1) 点検評価の対象

今回の点検評価は、令和4年度の重点施策に基づき実施した各種事務事業を対象としました。

(2) 点検評価の方法

行政評価における「施策マネジメントシート」及び「事務事業マネジメントシート」をふまえ、教育委員会で、必要性、効率性、有効性、公平性等の様々な観点から分析し、成果や課題、今後の改善点について点検評価することとしました。

資 料

教育委員会の活動					
(1) 会議・活動の開催状況					
項 目	単位	令和4年度	令和3年度	増減	事業内容
定例会	回	12	12	0	毎月1回開催
臨時会	回	2	1	1	必要に応じ開催
懇談会	回	5	4	1	必要に応じ開催
傍聴者数	人	0	0	0	
総合教育会議	回	1	1	0	
視察研修	回	0	0	0	必要に応じ実施
(2) 審議の状況					
項 目	単位	令和4年度	令和3年度	増減	事業内容
定例会審議案件	件	79	96	▲ 17	
報告事項	件	29	22	7	
承認事項	件	12	12	0	
審議事項	件	25	29	▲ 4	
協議事項	件	0	1	▲ 1	
教育長報告	件	13	32	▲ 19	
臨時会審議案件	件	2	1	1	
懇談会協議件数	件	6	4	2	
(3) 定例会・臨時会・懇談会以外の活動状況					
項 目	単位	令和4年度	令和3年度	増減	事業内容
学校訪問	件	10	6	4	

3. 令和4年度 教育委員会点検評価

はじめに

引き続きコロナ禍にある中で、先生・保護者等の協力で各種学校行事が遂行されていて、昨年度まで重点目標に挙げられていた各種事業について、着実に課題が解消され、事業展開が前進していると思います。

児童・生徒数が年々減少していく中で、小中一貫教育の推進、義務教育学校の検討、施設の老朽化対策等将来を見越した長期ビジョンを検討する必要があると考えます。

また、市外の保護者、子どもたちから魅力的と思われる取り組みを進めて、市外からの転入児童・生徒が増えるような外向きの雲南市教育の魅力の発信も大切だと考えます。

基本施策1 雲南市教育の推進体制の構築

- 教育魅力化推進事業については、高校に配置されたコーディネーターや統括プロデューサーの尽力により、さらなる前進を遂げた感があるものの、市内の高等学校、特に大東高校の定員割れは深刻で、市内高等学校へ一人でも多くの生徒が入学してくれるよう、生徒受入れ環境の充実や魅力ある学校づくりが急務の課題となっています。市内外の中学生にとって魅力ある学校となるよう、本市からの補助金交付をはじめ、教育活動、部活動、通学環境等に関わる様々な支援を早急に行っていくべきと考えます。
- 市内高校後援会補助金について、通学支援の補助金は維持されるべきものと考えますが、それ以外にも、高校の魅力化に資する教育活動の推進という観点からも、補助金のあり方を考える必要があると思います。実際どのような成果があり、高校からはどのような声が寄せられているのかを市民にもっと広報していくことが補助金への理解促進につながると考えます。
- 地域とともにある学校づくり推進事業について、各中学校区に「学校運営協議会」が設置され、地域コーディネーターやサポーター役としての校区担当者の配置により体制が整備され、各中学校区において、学校・地域・家庭が一体となった特色ある教育がより推進されるようになりました。しかしながら、一般市民への理解浸透が今ひとつであり、今後は、多くの住民の方に活動に参加してもらうよう、周知・啓発を図るなど、働きかけを行っていく必要があります。

- 学校給食管理運営事業について、学校給食における地元野菜の使用割合は、生産者の協力等により、年々高まってきており、安全安心な給食の提供につながっています。そうした当市における給食の特色を食育につなげていく必要があります。衛生管理やアレルギーへの対応も適切に行われていると評価できますが、異物混入はゼロになっていない状況であり、今後も、緊張感を持って取り組んでもらいたいと思います。また、残食量が大変多いため、学校や家庭とも連携しながら、残食量を少しでも減らすにはどうすべきか検討する必要があると考えます。加えて、児童・生徒数が減少傾向にあり、老朽化した給食センターの廃止・統合の検討が必要と考えます。
- 小中学校施設整備事業について、児童・生徒数の減少、教員不足を踏まえた持続可能な教育施策が大切であり、地域に学校を残すという意義は認めつつも、老朽化した校舎の整備・改修や改築に併せて、限られた予算の中で、市全体としてどのような学校施設の管理運営が将来を見据えたものになるのか検討することも大切ではないかと思います。
- 教材備品整備について、「教材備品管理システム」を構築し、拠点施設で一括管理し、各学校が必要の都度借り受け授業に活用するなど質の高い教材等による教育を図り、教材備品の有効活用、休眠備品の減少による予算の効率的有効活用を図ることも大切と考えます。
- スクールバスについては、市民バスとの共同使用による市有財産の効果的な運用を他部局と検討して、車両台数・運転手の確保・維持経費等少ない予算で大きな効果を上げる必要があると考えます。

基本施策２ 「生きる力」を育てる学校教育の推進

- 外国語教育支援事業については、従来の小学校英語教育推進事業と外国青年招致事業とを一体化したものであり、今般の国の外国語教育の流れと合致したものと考えます。本市外国語教育の一層の充実のため、教員研修の充実はもとより、ALT確保や教材・指導機器充実のための予算拡充が一層必要になると考えます。
- 部活動地域指導者活用支援事業について、専門的な人材による部活動の充実が図られるとともに、教職員の負担軽減に資することから、意義ある事業と考えます。配置時間数も年々拡大しており、継続的かつ安定的に指導が受けられるよう、部活動の地域移行も視野に一層の人材確保や財源確保が必要と思われます。また、部活動の地域

移行への流れがある中で、この支援事業の今後の見通しを整理しておくべきものと考えます。

- 学校図書活動充実事業について、読書活動の充実を目指して、学校司書配置校が増加してきていますが、なお未配置校もあり、豊かな心の育成及び読解力醸成のため学校図書館の充実と読書活動の推進を図るため、その配置を急ぐ必要があります。
- おんせんキャンパス運営事業について、おんせんキャンパスは増加する不登校の児童・生徒の居場所として、個々の実態に合わせた学習支援や体験活動を実施するなど、大きな役割を果たしています。アウトリーチによって不登校児童・生徒との関係を維持するなど学校支援も行われていますが、当市においては、不登校等の児童・生徒が高止まりの状況で、重要な課題の一つとなっており、おんせんキャンパスの体制強化など、当該事業の一層の充実が必要と考えます。
- 「夢」発見ウィーク事業について、中学3年生が職場体験学習することは、生徒の校外での貴重な学びの場となっており、生徒が働く意義を感じ、自分の将来を考え、地域を知る上でも大切な機会であると言えます。今後も事業者の方のご負担にならない範囲での活動継続が必要と考えます。
- 「夢」発見プログラムは、持続可能な地域づくりという市の課題解決のための施策として、年々効果が上がっており、故郷を愛し、将来の雲南市を担っていく人材育成には必要不可欠な施策となりつつあると思います。今後も継続し、さらに充実した施策により大きな効果を期待します。
- 一人一台端末が児童・生徒全員に貸与された現在、デジタル・シティズンシップ教育を推進していくことは大変重要です。本市でも、「ICTサポートデー」の実施、各学校の状況に応じた様々な支援等により、授業での一人一台学習用タブレットの活用が進んだことはこうした取組の成果だと思います。今後、さらに ICT 機器を使いこなし、授業の質を向上させたり、家庭学習充実のために端末を活かしたりして、確かな学力の育成にも役立ててほしいと思います。
- G I G Aスクール構想では、児童・生徒へのタブレットの配布が行われ、学習や課外活動など様々な場面で活用されており、教育の充実に寄与していますが、学力テストの結果を見る限りにおいては、その効果は十分に反映されていない状況にありますので、活用方法等について今一度検証するべきではないかと考えます。また、学校間の対応に差があり、当市全体での更なる推進が図られるよう、きめ細かな対応が必要

と考えます。

- 特別支援教育の充実について、特に支援が必要な児童・生徒は年々増加傾向にあり、市の専門調査員による該当児の事前調査を実施したり、関係者と何度も話し合ったりしながら、一人ひとりの状況・ニーズに応じた支援ができるような努力がなされています。児童・生徒にとって、より良い学びの場となるよう、様々な立場でサポートしてくれる教員や支援員、スタッフの継続配置、状況を見ながらの教員支援が必要であると考えます。

基本施策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

- 図書館管理事業については、図書資料の整備充実やボランティアと職員による読み語り、蔵書検索サービスの充実など、市民の読書活動の充実や読書の啓発に大きく寄与していると感じます。また、県立図書館だけでなく学校図書館や他の自治体の図書システムとのネットワーク化とともに、大人も子どもも一緒に家庭での読書の習慣化を図るなどによって市民の読書活動がより一層充実すると考えます。
- スペシャルチャレンジ・ジュニア事業補助金について、雲南市の未来を担う世代を育成する目的とした意義ある事業と考えますが、参加者が高校生に偏っていることから、中学生が積極的に参加できるよう、中学校や関係団体と連携し、工夫する必要があると考えます。
- 永井隆顕彰事業について、当該事業おける式典は、市民が平和を考える大切な機会であり、当市の特色ある取組として、継続すべきものと考えますが、市民の関心が高まっていない状況があります。永井隆記念館を平和教育の拠点として広報を充実させ、全国への情報発信とともに、市民への広報・啓発を工夫する必要があります。
- 文化財の施設を含めた社会教育施設は充実しており、市民の意識も高いように思います。しかし旧六町それぞれに設置されているため、重複したり、老朽化による修理箇所が多いことが課題としてあると思いますので、長期的な視点に立った今後の方針が重要であると考えます。
- スポーツ振興やスポーツ少年団活動は成果を挙げていて、子どもの時からスポーツに親しむ機運を継続するべきだと思います。島根かみあり国民スポーツ大会及び全国障がい者スポーツ大会が予定されていますので、子どもたちがこれを目指し、市民の中からその選手として出場することが期待されます。また、これを機にスポーツに親

しむ市民を増やし、市民の健康増進にも繋がるようにする必要があります。